

ズームアップ 経済統計

政情不安が

観光立国タイの泣きどころ

(タイ観光・スポーツ省「外国人観光客数」)

大和総研 経済調査部
研究員

永井 寛之



国連世界観光機関によると、2016年のタイの国際観光収入は米国、スペインに次ぐ3位の49.9億ドルだった。GDP比は11.0%と米国の1.1%、スペインの4.9%と比べて格段に高い。まさにタイは「観光立国」である。

17年のタイの外国人観光客数は前年比8.8%増の約353.8万人となった(図表)。17年の国別・地域別の訪タイ外国人観光客数を見ると、1位の中国から98.1万人、2位のマレーシアから33.5万人、3位の韓国から17.1万人の観光客が訪れた。このように、近隣のアジア諸国からの観光客が多いが、欧州全体で65.1万人、米国で106万人と欧米からの観

光客も少なくない。

タイの魅力は、風光明媚な観光スポットや海のレジャー・スポーツの多さだけではない。国際的な医療機関評価であるJCI認証を受けた病院数は60施設を超え、東南アジアで一番多い。このことからもわかるとおり、医療サービスのレベルが高く、医療ツーリズムが盛んであることも、その魅力を高める。

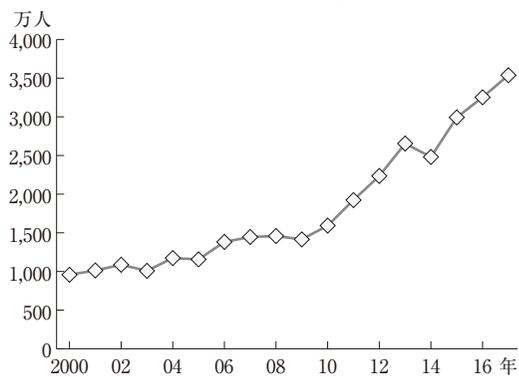
中国からの観光客数は、10年以降急増している。地理的な近さに加え、12年にタイを舞台にした映画「Lost in Thailand」が興行成績12億円を超える大ヒットを記録。その影響で観光客数が12年11月に前年同月比で300%超に激増す

るなど、人気に火がついた。しかしその後、16年末から17年初めにかけて中国人観光客数は一時的に急減した。宿泊費や食費といった旅費をすべて無料にする代わりに現地の土産物を法外な価格で購入してもらうことで利益をあげる中国人向けツアー(ゼロドルツアー)が規制されたためであった。

その後、中国人観光客数はふたたび回復する。韓国によるTHAADミサイル配備への報復措置で、中国人観光客の韓国への渡航が禁止され、代わりにタイに流れたことも、その一因にあげられる。

ただし、観光業には政情不安という不安定要素が常につきまとう。とりわけ、テロやクーデターの発生は治安の悪化を引き起こし、外国人観光客数を大きく減少させ、観光業に打撃を与える。クーデターの起きた14年4〜6月期の外国人観光客数は、前年比▲15.9%、サービス輸出は同▲8.6%となり、タイの実質GDP成長率(同0.8%)を1.2%押し下げた。

〔図表〕 タイの外国人観光客数の推移



(出所) タイ観光・スポーツ省から大和総研作成。

14年のクーデターの元となったタクシン派と反タクシン派の対立は現在も続く。タクシン派は民政復帰に向けた総選挙の早期実施を求め、反タクシン派に近い軍事政権側は、総選挙実施をたびたび延期し、直近でも18年11月に実施予定であった総選挙を19年1〜2月に延期することを決定している。当然、タクシン派の不満は高まり、反政府デモが拡大している。政情不安が高まるのであれば、観光業への下押し要因となりかねない。今後の動向に注視する必要がある。